

## 1 市民の多様な背景と暮らし

越谷市は首都圏近郊の住宅都市として発展し、全国各地から多くの人に移り住んできました。長く暮らす人も新しく住み始めた人も、互いに協力しながら地域を育ててきました。

近年は、市民の間でも出身地や世代、家族構成、働き方の多様化に加え、国際結婚の増加などにより、価値観も広がりを見せています。単身世帯や共働き世帯の増加、子育てと介護の両立、さらにはジェンダーや障がいの有無にかかわらず共に暮らしています。こうした多様性は、まちの豊かさと活力の源であると同時に、相互理解や支え合いのあり方を問い直すきっかけにもなっています。「多文化共生」は、すべての市民が安心して暮らせるまちを実現するために欠かせない視点です。

本章では、市民の暮らしの現状をデータに基づいて整理し、「誰一人取り残さない」という視点から読み解きます。続く第3章では、市民アンケートや地域の声をもとに課題を整理し、第4章以降ではその結果を踏まえて具体的な施策の方向性を示します。

## 2 日本人市民の状況

本市の日本人市民は令和7年12月1日時点で 331,524人にのぼります。日本人市民の中にも、出身地や家族構成、働き方、生活環境のちがいがあり、価値観やつながり方も多様化しています。これまで越谷市が育んできた地域のつながりは、そうした多様な人々の協力や支え合いによって築かれてきました。

まちの多様性は、外国籍市民の増加に限らず、ここに暮らす日本人市民一人ひとりの多様さからすでに始まっています。

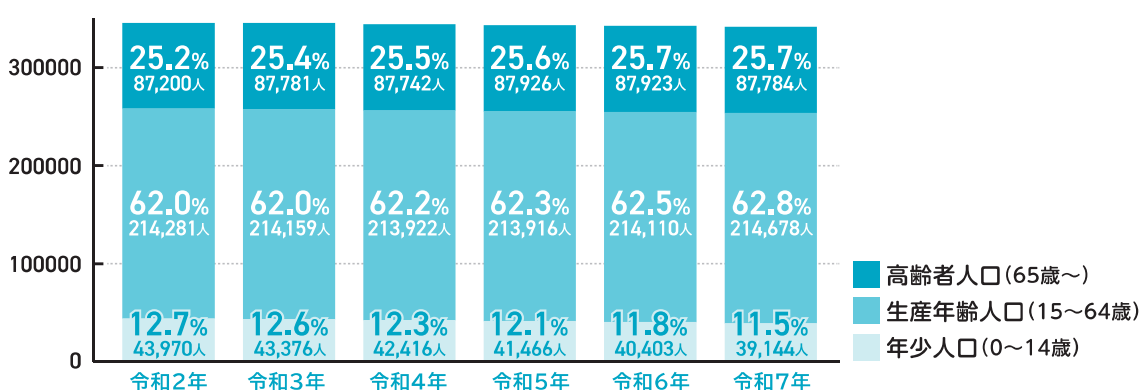
## (1) 年齢別の状況

高齢化の進行とともに人口構成にも大きな変化が見られます。令和6年12月時点で、65歳以上の高齢者が25.7%（約8.8万人）を占めています。一方で、15歳未満の年少人口は11.8%（約4万人）にとどまっています。

生産年齢人口（15～64歳）はおよそ6割を維持しているものの、40代後半から60代前半の人口が多く、今後10年間で高齢層への移行が進むと見込まれます。

また、若年層では就学・就職による市外転出が見られ、地域によっては高齢化が進展しています。こうした人口構造の変化は、地域内での多世代交流や支え合いの仕組みづくりの重要性を示しています。

年齢別人口の推移（各年12月時点）



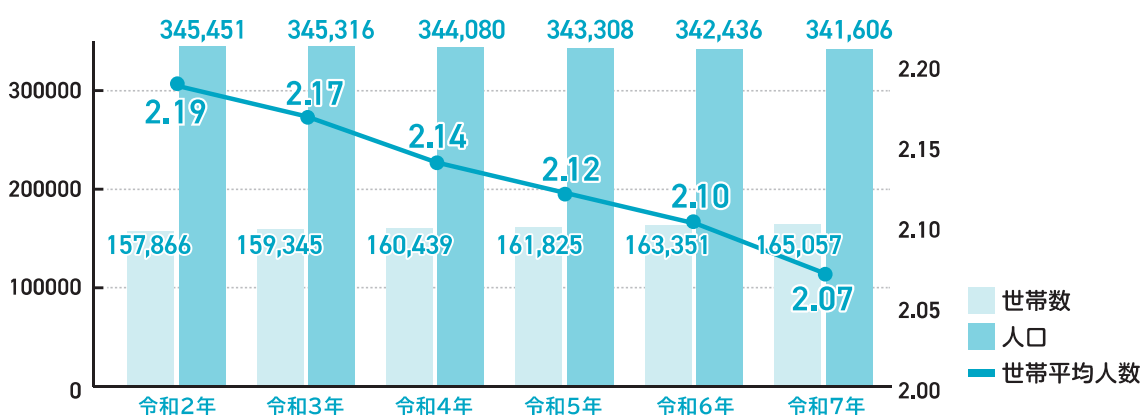
## (2) 世帯の変化

越谷市全体の世帯数は年々増加していますが、1世帯あたりの平均人数は2.10人（令和6年12月現在）と減少傾向にあります。

単身世帯や共働き世帯、高齢者のみの世帯が増加するなど、家族構成の多様化が進んでいます。特に高齢単身世帯や高齢夫婦のみ世帯が増加しており、地域の見守り体制や介護支援、生活支援などの充実が課題となっています。

一方で、若年層や子育て世代の転入も一定数あり、保育・教育・地域交流の場づくりに対する需要も高まっています。

世帯数と人口の推移（各年12月時点）



### (3) 自治会

地域住民同士が助け合い、安心して暮らせる生活環境を築いていくための基本的な組織として越谷市にも自治会があります。

本市の自治会加入率は約56%で、近隣の自治体と同程度の水準にあります。

令和7年5月1日時点の自治会加入世帯数は91,778世帯です。加入率は年々減少傾向にあり、この要因としては、コミュニティ意識の希薄化や役員などの担い手不足、自治会内の高齢化などが挙げられます。

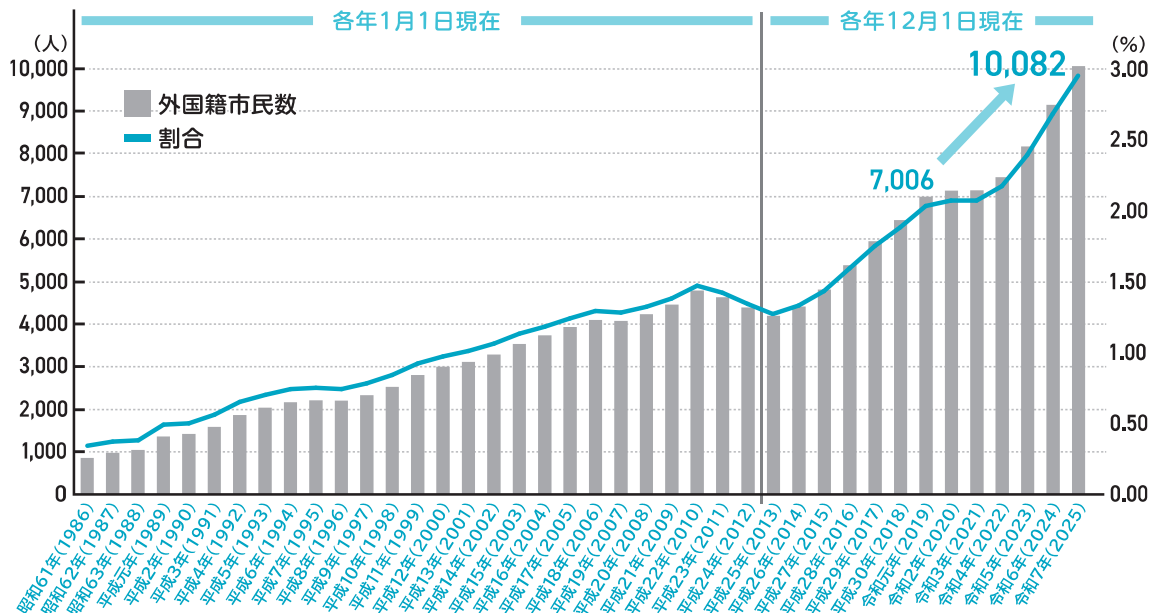
## 3 外国籍市民の状況

越谷市の外国籍市民数は、新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に減少しましたが、その後は再び増加傾向にあります。令和7年(2025年)12月1日現在では10,082人に達し、本市の総人口に占める割合は約3%、市民のおおよそ35人に1人が外国籍です。

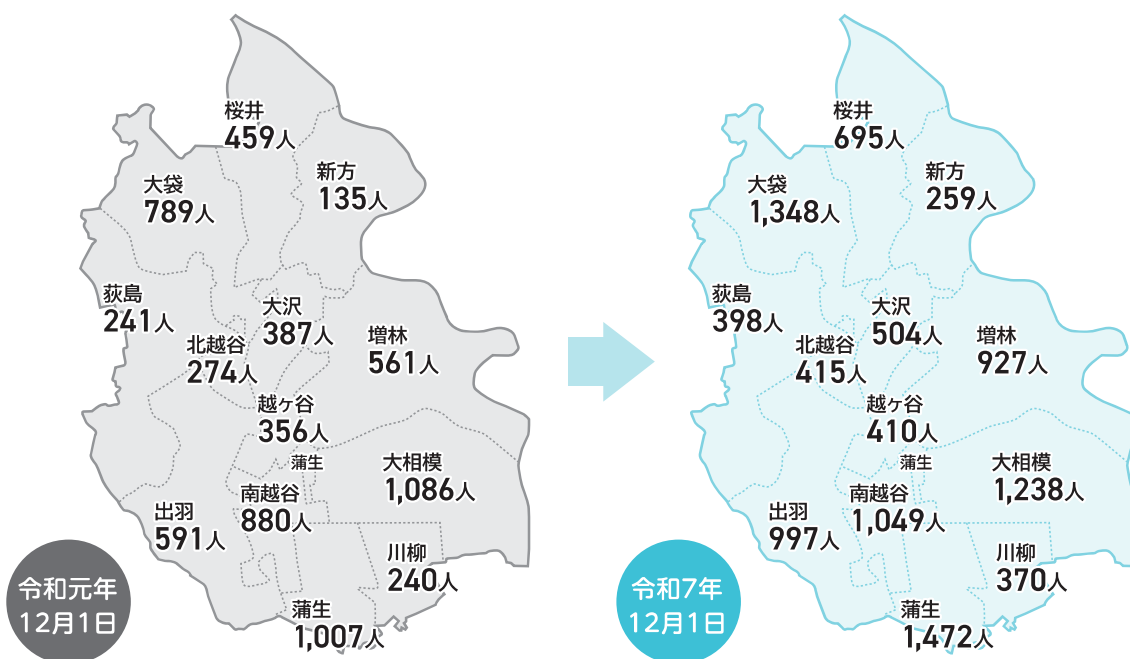
この数値は過去最高を更新しており、令和元年(2019年)12月1日時点の7,006人と比較すると、3,076人の増加となります。

地区別に外国籍市民数の状況を見ると、市内13地区すべてで増加が確認されています。中でも、蒲生地区、大相模地区、大袋地区における増加は大きく、これらの地区には多くの外国籍市民が暮らしています。

### 外国籍市民数と全人口に対する割合の推移



## 地域別外国籍市民数の推移



	地区名	令和元年12月1日現在			令和7年12月1日現在		
		総市民数(人)	外国籍市民数(人)	割合	総市民数(人)	外国籍市民数(人)	割合
1	桜井	38,151	459	1.20%	36,954	695	1.88%
2	新方	14,480	135	0.93%	13,833	259	1.87%
3	増林	33,405	561	1.68%	33,192	927	2.79%
4	大袋	51,327	789	1.54%	50,986	1,348	2.64%
5	荻島	11,959	241	2.02%	11,563	398	3.44%
6	出羽	31,696	591	1.86%	31,265	997	3.19%
7	蒲生	43,998	1,007	2.29%	43,203	1,472	3.41%
8	川柳	9,922	240	2.42%	10,927	370	3.39%
9	大相模	35,070	1,086	3.10%	36,403	1,238	3.40%
10	大沢	22,097	387	1.75%	21,395	504	2.36%
11	北越谷	8,708	274	3.15%	8,722	415	4.76%
12	越ヶ谷	16,177	356	2.20%	16,337	410	2.51%
13	南越谷	27,525	880	3.20%	26,826	1,049	3.91%
	市全体	344,515	7,006	2.03%	341,606	10,082	2.95%



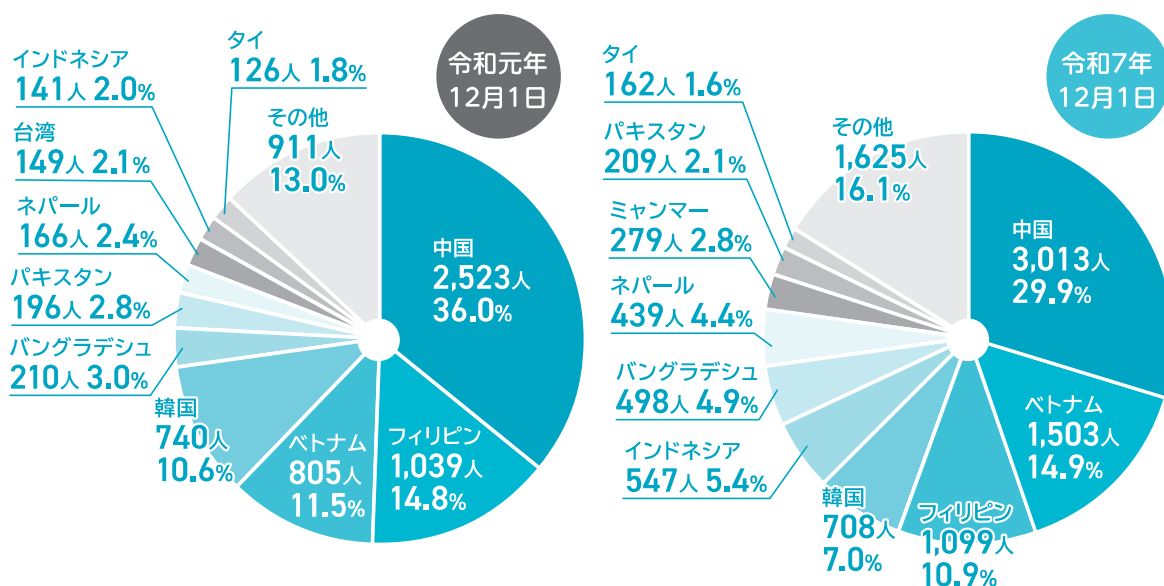
## (1) 国籍・地域別の状況

令和7年(2025年)12月1日現在の外国籍市民を国籍・地域別に見ると、中国が最も多く、引き続き全体の中で最大の割合を占めています。

次いで、ベトナム、フィリピン、韓国、インドネシアの順に多く、特にベトナムとインドネシアの増加が目立ちます。

中国やフィリピンは人数は増加傾向にあるものの、全体に占める割合は緩やかに低下しています。韓国については、上位5か国の中で唯一、減少しています。

国籍・地域別外国籍市民数



順位	令和元年12月1日現在			令和7年12月1日現在		
	国籍・地域	件数	割合 (%)	国籍・地域	件数	割合 (%)
1	中国	2,523	36.0%	中国	3,013	29.9%
2	フィリピン	1,039	14.8%	ベトナム	1,503	14.9%
3	ベトナム	805	11.5%	フィリピン	1,099	10.9%
4	韓国	740	10.6%	韓国	708	7.0%
5	バングラデシュ	210	3.0%	インドネシア	547	5.4%
6	パキスタン	196	2.8%	バングラデシュ	498	4.9%
7	ネパール	166	2.4%	ネパール	439	4.4%
8	台湾	149	2.1%	ミャンマー	279	2.8%
9	インドネシア	141	2.0%	パキスタン	209	2.1%
10	タイ	126	1.8%	タイ	162	1.6%
11	その他	911	13.0%	その他	1,625	16.1%
	総数	7,006	100.0%	総数	10,082	100.0%
	越谷市総人口	344,515	2.03%	越谷市総人口	341,606	2.95%

## (2) 在留資格別の状況

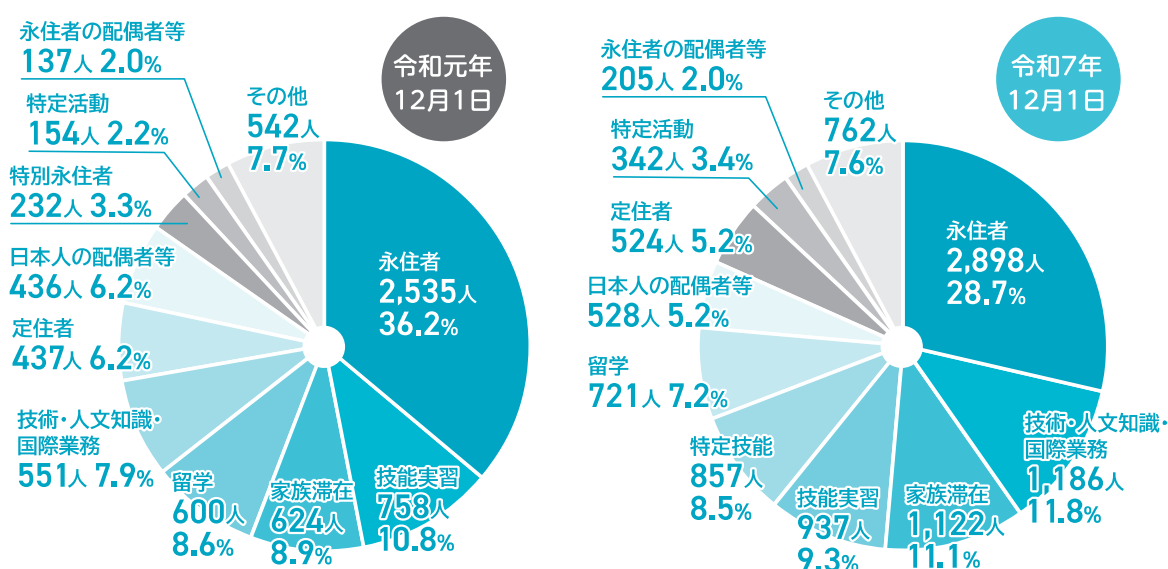
令和7年(2025年)12月1日現在の在留資格別の状況を見ると、最も多いのは「永住者」で、次いで「技術・人文知識・国際業務」、「家族滞在」、「技能実習」、「特定技能」が続きます。

上位5つの在留資格はいずれも人数が増加しており、とくに「技術・人文知識・国際業務」、「家族滞在」、2019年に新設された「特定技能」の伸びが顕著です。これらの増加は、企業や地域社会における外国籍人材の受け入れの広がりを示しています。

一方、「永住者」や「技能実習」は実数としては増加しているものの、全体に占める割合はやや低下しています。

このように、越谷市では在留資格の構成にも変化が見られ、多様な目的・背景を持つ外国籍市民が増えていることがわかります。

### 在留資格別外国籍市民数



順位	令和元年12月1日現在			令和7年12月1日現在		
	在留資格	件数	割合 (%)	在留資格	件数	割合 (%)
1	永住者	2,535	36.2%	永住者	2,898	28.7%
2	技能実習	758	10.8%	技術・人文知識・国際業務	1,186	11.8%
3	家族滞在	624	8.9%	家族滞在	1,122	11.1%
4	留学	600	8.6%	技能実習	937	9.3%
5	技術・人文知識・国際業務	551	7.9%	特定技能	857	8.5%
6	定住者	437	6.2%	留学	721	7.2%
7	日本人の配偶者等	436	6.2%	日本人の配偶者等	528	5.2%
8	特別永住者	232	3.3%	定住者	524	5.2%
9	特定活動	154	2.2%	特定活動	342	3.4%
10	永住者の配偶者等	137	2.0%	永住者の配偶者等	205	2.0%
11	その他	542	7.7%	その他	762	7.6%
	合計	7,006	100.0%	合計	10,082	100.0%



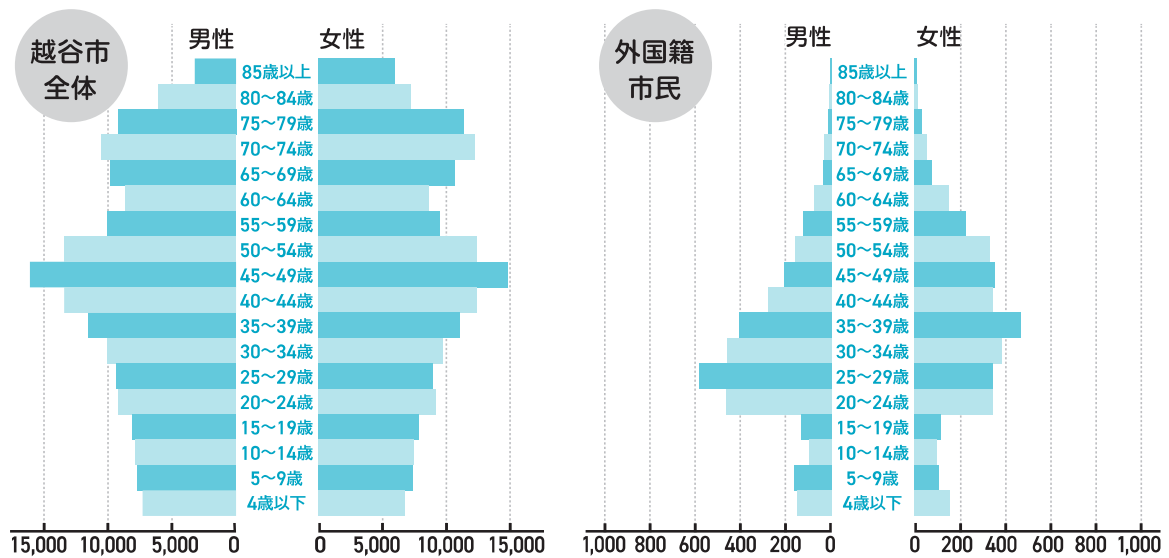
### (3) 年齢別の状況

越谷市の市民全体で見ると、令和元年12月1日と比較して令和7年12月1日現在、年少人口が減少しています。一方で、外国籍市民に限って見ると、対照的にすべての年齢層で、人口が増加しています。

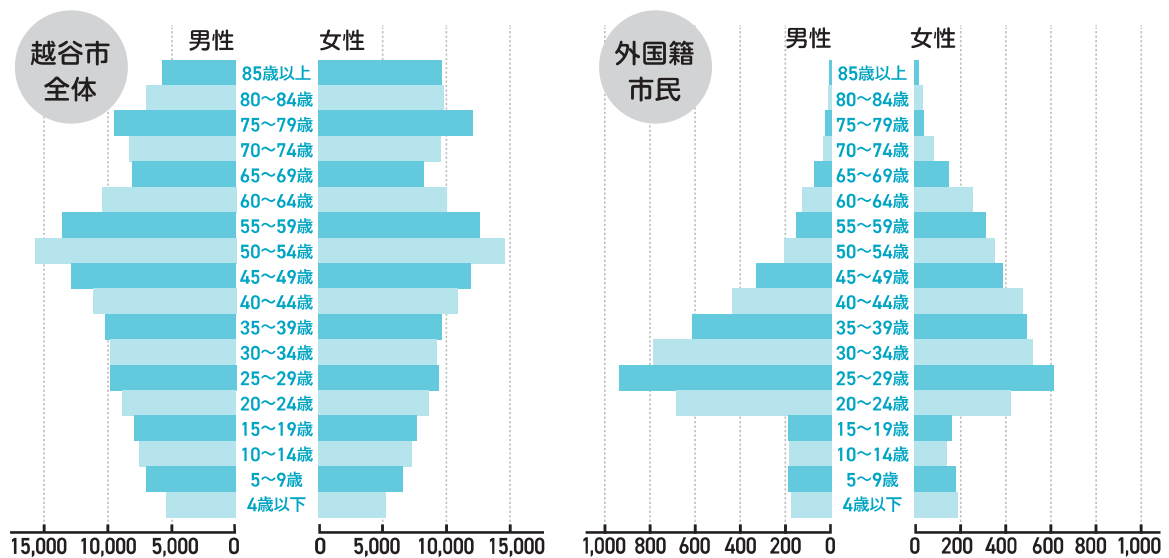
また、外国籍市民が全体に占める割合で見ると、年少人口と生産年齢人口はわずかに減少しており、一方で高齢者人口は増加しています。

#### 性別・年齢別人口構成

令和元年12月1日現在



令和7年12月1日現在



## (4) 地域コミュニティ

本市には、外国人市民と日本人市民がともに活動する、さまざまな地域コミュニティがあります。日本語教室や学習支援、地域の文化交流、宗教活動などを通じて、人と人がつながり、互いを理解し合う場が広がっています。

### ■ 多文化交流ひろば

越谷駅東口の越谷市市民活動支援センター内に令和7年4月に新たに設置した、外国人市民と日本人市民の交流のためのスペースです。この多文化交流ひろばでは、市民活動支援センターの登録団体をはじめ、さまざまな方に利用していただき、多文化共生への理解促進や地域活動の活性化を目指します。

